



フィグ・ヤーパン通信

第41号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.41

発行日 2010年1月1日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

新年のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、一年間の間に出版や翻訳、校正作業等で同時に5冊の書籍を対象に作業を進めた年でした。まず、2001年に徳間書店から出版され、その後の絶版に伴い入手が困難になっていた、『宇宙の深遠より—プレアデス/プレヤール人とのコンタクト』を、装いも新たに水瓶座時代出版より再版しました。さらに、新風舎の倒産によって同じく絶版となっていた『わずかばかりの知識と知覚そして知恵』を、改訂新版として文芸社より再版しました。この書籍は、昨年末から全国の主な書店の店頭と並べられている他、インターネットを通じて発売中です。この他、『アラハト・アテルサータ』と『プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(5)』の水瓶座時代出版からの出版に向けての校正・編集作業が進められました。そして、ビリーの著作の中でも最も重要な一冊とされる『Kelch der Wahrheit (真理の杯)』の翻訳を開始しました。この書籍の翻訳着手に際して、多くの読者の皆様からご支援をいただきました。書籍類に加えて小冊子では、人生を無為に過ごすことを警告した『仕事やその他の有意義な活動をしないと人間は墮落する』を出版しました。

昨年は、以上のような書籍類の翻訳出版活動に加えて、日本の窓口として私たちの活動をスイスから常に支援してくださっている、リッカウアー夫妻をお招きして講演会を開催することができました。この講演会は、熱心な読者からのご提案をきっかけに

して開催されたものです。講演会のために、リッカウアー夫妻に、3泊4日の短い滞在日程で来日いただきました。なお、当日都合によりお越しになれなかった方のために、講演会の内容を収録したDVDビデオを制作しました。

さらに、昨年12月には東京スタディグループの有志によってUFO写真展が開催され、1週間の開催期間中に200名もの来場者があり、成功を収めています。講演会や写真展の開催、翻訳出版活動へのご支援等、フィグ・ヤーパンの活動は読者の皆様によく支えられています。そこで、読者の皆様とフィグ・ヤーパンが、日本におけるミッションについて気軽に意見交換することができるように、新しい試みとして「ランチ・ミーティング」を開始しました。第1回目は、5名の読者にご参加いただきました。読者の皆様とフィグ・ヤーパンの交流の機会は、今後も積極的に作っていく予定です。

フィグ・ヤーパンの活動は、完全なボランティアで行われているため、暮らしのための仕事との両立は容易ではありません。しかし、こうして一年間の成果を振り返り、今後の展望を得ることができるのも、読者の皆様の暖かい励ましがあってのことと存じております。改めて感謝申し上げますとともに、本年も引き続きご支援くださいますよう、どうぞよろしく願いいたします。

2010年 元旦

フィグ・ヤーパン一同

2009年2月3日第476回会見記からの重要箇所の抜粋

ビリー：……さらに2012年12月21日の件について正式に話題に取り上げようと思う。なぜなら私はマヤ暦のこの日に何が起こるか繰り返し尋ねられるからだ。私自身は君たちの説明によって、その日、さらに2012年を通していったい何が起きるか知っているが、人々を不安にしてパニックを引き起こさないために喋るわけにいかない。そこで特別公報で何か書こうと考えたのだ。私が前に君たちから聞いた幾つかのことを、少なくとも一般的な形で、多分小さな蓋然性または可能性として述べるのが良いだろう。君はどう思うかね。

プター：……2012年12月21日とこの年全体についてだが、ある事柄は公表してもいいが、黙っているよう勧められたことは言わないほうがいい。君が可能性または小さな蓋然性として述べるのなら、それはいいだろう。

ビリー：では私がすでに特別公報のために書いたものをここで朗読しよう。この会見で内容を吟味するのがいいと思う。もし私が黙っているべきことを言ったら、中断してその先を言わないようにしてもらいたい。

プター：それはいい考えだ。では君が何を言おうとするのか聞かせてくれ。

ビリー：わかった。では君たちが2012年について私に説明したことを、私は預言や予告ではなく、可能性およびある小さな蓋然性として扱う。最初に私に寄せられた質問から始めよう。

質問

ビリー・マイヤー、マヤ暦、特に2012年12月21日に関して、至る所で噂されていることについてご意見を聞かせてください。そのとき世界は滅亡すると言われてはいますが。

W. ヒーシュタント、スイス

これに対するビリーの回答

質問について最初に言っておくと、不安やパニックを扇動する者たちが、2012年12月21日に世界の終末もしくは世界の滅亡を「預言」するなど馬鹿げた主張をしているのは、まったくの戯言である。その日に世界の滅亡が起こらないのは、世紀と千年紀の変わり目である2000年に占星術師、秘教徒、知ったかぶり、パニック扇動者が「預言した」世界の滅亡が起こらなかったのと同じである。このようなパニックを扇動する偽りの主張はすべての陰謀論と同様に絶対にナンセンスであり、それらは暦計算が行われて以来、あるいは特別な珍しい天文学上、気候上の現象が発生して以来、至る所で流布されてきた。たとえば世紀や千年紀の変わり目になると必ず、世界の滅亡が絶対確実に起こると主張される。同様に、天文学上の特別な星位や彗星や、地球上の特別な自然現象が生じても、同じことが起こる。パニック扇動者、「予見者」、偽りの「精通者」、その他ありとあらゆる世界滅亡の預言者がこれらの要因を利用して、自分たちの戯言を広め、大勢の人間を不安と恐怖に陥れようとするのである。

マヤ暦に関して言えば、2012年という年は数多くの特別な出来事をもたらす。これには我々の惑星系の中心星、すなわち太陽が寄与する。なぜなら、太陽の表面で巨大な爆発が起きて太陽嵐が引き起こされるが、この太陽嵐は非常に強大で、地球の地磁気バランスにも影響を与えるからである。地球に到達する非常に強力な電磁波によって、磁場がきわめて強い変動を受ける。地磁気電流によって電気回路や電子機器はすべて機能しなくなり、人工衛星や国際宇宙ステーションも大きな被害を受けるか、完全に故障する恐れがある。このような太陽嵐は途方もない大災害を誘発し、最悪の場合は地球の磁場の反転に至る。加えて言うなら、太陽嵐は正確に11年周期で最高潮に達するので、2012年に異常に強くなるというのは正常である。それゆえ地球は激しい電磁波に強く照射され、それは地球のオゾン層にも甚大な影響を及ぼす可能性がある。それによって生じるあらゆるプロセスにより窒素酸化物や酸性雨が世界中で発生し、植物界全体に有害で破壊的な作用

を及ぼしかねない。このほかにも巨大な太陽爆発は、地球上で大規模な気候変動を誘発して途方もない旱魃、荒天、火山の噴火、地震、不作を来し、その結果、現在すでにあるよりも激しい飢餓を招来することが懸念される。これらすべてのほかにも 2012 年という年は、別の喜ばしくない事柄をもたらす。たとえば、我々の太陽系の周縁部から、暗黒の目に見えない未知の巨大な宇宙放浪星が迫ってきて、地球に計り知れない災厄をもたらす可能性がある。実際にそうなるとして、そのような星が存在するという事実がおよそ証明されるのは 2010 年か 2011 年になってからであろう。なぜならこの「暗黒の」巨星は確認されないまま通過する可能性もあるからだ。さらに 2012 年には不和や激しい戦争行為に関して至る所で喜ばしくない策謀が行われ、人間の行動様式の変節や行き過ぎが生じるが、これらすべては特別邪悪である。それに加えて……

プター：それ以上は言うべきではない。君が説明したことで十分のはずだ。

ビリー：わかった。ここでやめておこう。しかし地球の人間にとって、マヤ暦の 2012 年 12 月 21 日にどのような意味があるかは興味深いだろう。それについて何か言ってもらえないか。

プター：それは可能だ。マヤ暦では 2012 年 12 月 21 日に太陽の位置が頂点に達するが、それはおよそ 26000 年の周期でしか起こらない。マヤの計算が前提としているのは、2012 年 12 月 21 日に地球は、オリオン座の左側の上方にある星と、中心太陽もしくは銀河の中心とを結ぶ仮想線上に位置するということだ。太陽は、地球人が「銀河の暗黒の隙間」と呼ぶ、星間塵によって形成された場所で銀河と出会う。2012 年 12 月 21 日、冬至の薄明の時刻に太陽はちょうどこの隙間の中にあって、銀河が水平線を完全に包囲するような位置にある。それによって銀河が周囲すべての点で地球に接し、銀河系が地球の真上にあるかのような錯覚を引き起こす。これが大体においてマヤ暦の記録の最終生成物である。これで十分だろう、我が友よ。これ以上語れば、度が過ぎるだろう。それは地球人の不安を助長するにすぎ

ないからだが、そのようなことはすべきではない。だから我々が君に与えたその他すべての説明については黙っていたまえ。

ビリー：そうしよう。だが、気候変動について忘れてはならないことをもう少し言っておきたい。無責任な科学者や公的機関は意図的に否定するが。その理由は彼らが巨大な石油企業や煙草企業、有名な多国籍化学企業、その他の大企業から何百万という多額の賄賂をつかまされたからだ。そんなことをするのは、これら金で買える「専門家」に偽りの鑑定を作らせ、気候変動などと言うものは存在せず、大災害の危険もないという嘘を語らせるためである。この点で犯罪的な大企業は、買収によって自分たちに従属させた科学者や機関を背後に集めている。なぜなら彼らは、この件について無知な地球の住人は、気候温暖化を指摘する科学者よりも、金で買える科学者や機関の嘘の方を信じるだろうと考えるからである。それゆえ彼らは、気候温暖化は存在せず、したがってそれによる大災害も予想されないことを証明できる、正直な科学者や機関が非常に数多いかのような印象を喚起しようとする。実際には何百万どころではなく何十億という金が動いており、強欲者たちは世界や全人類の生存基盤が破壊されようと頓着しない。これに関与するすべての者は共謀キャンペーンをやって、気候変動の本当の事実を否定し、それによって世界中で抜本的な気候変動保護法が制定され施行されるのを妨げようとする。もしこのような法律が制定、施行されたら、大企業などは何十億という途轍もない金額を失い、また彼らに従属している科学者や機関にとっては儲かる金銭源が枯渇することになるからだ。そのため彼らは嘘で固めた偽りの鑑定を必死に作って、誠実で善良な科学者の本当に深刻な研究結果をボイコットし、空想の産物として罵ることに躍起になっている。そのために気候変動に対して対策を講じるのが数十年間遅れ、その間に気候変動を否定する大企業などは何十億も稼いだ。だが、気候変動が起きているのは真実であり、それも昔から自然に発生してきたような事情によるものだけではなく、75 パーセント以上は人間が引き起こす要因によるものである。気候変動は最終的に地球とその河川および自然に影響を及ぼすだ

けではなく、すでに証明されているように、氷河や極が大規模に溶け、海流も変化し、それによって最初はわずかではあるが、今日すでに新しい重力波が形成されて、非常に大きい速度で宇宙空間にも伝搬している。それゆえ地球は2012年に差し迫る太陽嵐によってだけでなく、重力場によっても変化するが、その影響は惑星のみに限られず、いわゆる重力宇宙津波として宇宙空間にも広がっていく。つまり気候変動は地球を変えるだけでなく、その作用は太陽系のカイパーベルト、そしておそらくははるかに遠い宇宙空間にまで伝わる。したがって海流が混乱に陥ると、その巨大な水量によってもものすごいエネルギー量を生み出し、それが重力場に影響を与えるのである。その一方で、気候変動によって地球の大気も凝集されるが、これはすでに気づかれないまま始まっている。すでに生じている全般的な気候変動によって、動物相と植物相にも最初の変化が生じているが、残念なことに科学者はまだそれを認識していない。だが、遅かれ早かれ目に見える帰結が生じるだろう。気候変動は莫大な量の氷や水を動かし、それによって地殻に危険な圧力が加わって、地質構造の変位を引き起こす。その結果、いやおうなく巨大な地震や火山の噴火が頻発するが、これは巨大な貯水ダムによっても起こる。偏狭な科学者は今もこれを否定し続けているが、その理由は彼らが真実を認めようとしなからか、巨大企業から金を受け取って偽りの計算をするケースも珍しくない。しかし必要な慎重さをもって考慮されていないのは、あらゆる国々の内陸氷河の融解や、グリーンランド、南極地方および北極地方の氷河融解によって海面が上昇し、最後には地質学的大災害に至るという事実である。グリーンランドと南北極の巨大な氷塊や、すべての国の内陸氷河は何十億トンという重さで地底を押し付けている。地底は地殻深く入り込み、そこには巨大な陥没が生じている。これらの巨大な氷塊が融けると、地底を圧迫する圧力がなくなるので、地底は再び急速に上昇しようとする。その結果生じる弛緩によって陥没も消滅する。しかしこれは危険を伴わないわけではない。なぜなら、この弛緩によって地質構造の運動が生まれて、大小さまざまな規模の地震が頻発するからである。他方、氷が融けた水によって海面が上昇し、その結果、沿岸地域は新

たに水圧によって圧迫される。それによって地底は再び非常に深い地点で変動してマグマが動き、火山へと押しやられる。その結果、新たに火山の噴火が頻繁に起こる。しかしまた海の水が途方もなく増えることは、さらに別の悪影響も及ぼす。なぜならそれは地球の回転に影響して、惑星の回転が速くなり、昼間の時間が変化するからである。だがこれは気候温暖化の影響のすべてではない。というのも、実際には気候温暖化によって人間も肉体的、心理的、精神的に否定的な影響を受けるからである。たとえば鬱病が生じて、地球の多くの人間の間で次第に広がり、慢性的な状態となる。意識障害もますます頻繁に現われ、不安状態や、思考および感情の喪失状態が蔓延し、思考も冷める結果、冷酷が広がる。残忍、暴力、破廉恥はますます甚だしくなり、同胞の殺人にまで至る。あらゆる害悪が激増し、快楽への欲望や、アルコール、薬剤、麻薬、アドレナリンキックの中毒も増える。このようなことが起きるのは、気候変動によって人間の精神状態が害されて、脳の解剖学的構造に異変を来すためである。それが起きても最初は気づかれず、科学者もまだ認識していない。だが、私が事実および真実を公表した今、彼らはこれも否定するだろう。私がおよそ2年前に君から個人的に聞いたことで、言っておきたいのは以上だ。

プター：君がたった今語ったことは、公にできる限界にある。これ以上書いたり、説明したりすべきではない。

ビリー：了解。しかし次のことについては、やはり少し言っておくべきだろう。地球の人間は多くの害悪や災害を自分で招いている。それは気候温暖化に限ったことではなく、彼らは集合的に、自分たちの思考および無意識の力を非常に強力に害悪や災害などに向けているのだ。これには不安やパニックを扇動する者、世界の滅亡の預言者、宗教およびその教派などの偽りの主張や嘘も含まれる。抵抗力のない人間はこれらに意識を集中させ、それによって害悪や災害などが実際に生じるのである。以前は邪悪な情報、不安、世界滅亡の噂、その他のナンセンスは、宗教や教派、世界滅亡の預言者、新聞、雑誌、ラジオによって伝えられるしかなかったが、今日はイン

ターネットがあるのでいっそう始末が悪い。大部分の人間において、パニック扇動者や陰謀論者が「預言」する恐ろしい出来事が頭から離れず、抵抗力のない人間は不安と恐怖に駆り立てられる。多くの人間がナンセンスを信じれば信じるほど、そしてこれを自分の中で、またその周囲で妄想にまで高めれば高めるほど、これに関する集団的思考の力は強力になり、ついには支配的な力となって仮想された災害や害悪を招来するのである。言うなれば思考の力がすべてのことを実現させるが、それは同じ事柄で多くの人間の思考の力がより多く結集されればされるほど確実である。これは、人間がその思考に抱き育てるものは、いやおうなく実現することを意味する。

そして多くの人間が思考の力を特定のことに向ければ向けるほど、確実にそれは起こるのである。これはおよそ考えられるすべてのこと、それゆえ自然のファクターにも当てはまる。自然のファクターも、人間の強力な思考の力によって影響されて、途方もない災害を引き起こすことができるのである。

プター：否定しようのない事実だ。最後にもう一度言っておくが、君は2012年の件についてこれ以上詳細を公表すべきではない。公表することが必要になれば、早めに君に知らせる。

(出典：FIGU 特別公報第49号)

— UFO 未知の世界の宇宙船 —

UFO

未知の世界の宇宙船（前号からの続き）

以上がアルフレート・ブバールの言葉である。彼は事実を認識して公表し、それによってUFOの件に関する真理の擁護者となった唯一の人物ではけっしてない。UFOの件に関しておそらく最も偉大で名声の高い闘士にして、地球上における地球外生命体の存在もしくはその地球訪問に関する真理の擁護者は、『マガジン2000』の編集長ミヒャエル・ヘーゼマンである。彼に対するこの評価は、たとえ世界全体ではないにしても、少なくともヨーロッパ圏では当を得ている。彼は雑誌『マガジン2000』の中で、また講演やテレビ出演や本などで、UFO研究に関する真理や、地球外生命体がすでに昔から自分たちの飛行装置に乗って地球を訪れているという真理を守るために絶えず戦い続けている。他方また彼はUFOの存在に関する策謀と実態、そして政府や官庁、軍や諜報機関の行動についてもたゆまず書いたり、語ったりしている。また彼は以前から、政府や軍や諜報機関などにおいて、「UFO現象を認める件に関して新しい開放性」が広がっていることについても報告している。たとえば1994年、彼はその本『UFO—新たな証拠』の序文に、次のように書いている。

東西冷戦は過ぎ、鉄のカーテンは崩れ落ち、世界

中に「改革の風」が吹いたとき、政府と軍によるUFO問題の取り扱いにも「新しい開放性」が見られるようになった。すなわちベルギーとロシアの空軍の司令官はUFOの存在を公式に確認し、スペイン、イギリス、イタリア、ブラジルはUFO関連文書を公開し、ヨーロッパ議会は欧州UFO届出機関の創設動議について討議した。アメリカではUFO墜落の噂について調べる議会の調査委員会を検討し、日本政府もこの問題に取り組み始めた。最高レベルの政府関係者の間でも情報に飢えているのは不思議ではない。クリントン大統領の科学顧問も、ローレンス・ロックフェラーなどのUFO研究者から情報を集めた。国連の職員や外交官は、本書（『UFO—新たな証拠』）の著者を含むUFO研究者を招待して地球外生命体とのコンタクトの事実関係や意味について討議した。これらすべてのことは、状況が逼迫し、きわめて近い将来にUFO問題は世界中がもはや無視できなくなるほど緊急のテーマとなることを示唆している。

私は、今日の人類は第3千年紀への入り口にあって、真理を知る権利を有すると信じている。本書（『UFO—新たな証拠』）のような本は、世間に地球外生命体の存在に慣れさせ、ある日公然とコンタクトが開始されたときにカルチャーショックなどを受けないようにするという目標に役立つ。そのようなコ

ンタクトは、宇宙飛行時代の幕開けを迎える我々にこのうえなく大きなチャンスを与えてくれるものと確信している。なぜならそれは、我々が創造の中心ではないということに認識しなければならないことによって、宇宙における我々の位置に関して、500年前のコペルニクスの転回にも比肩できる新しい視点を伝えるだろうからである。レーガン大統領は彼が引用した「地球外生命体の脅威」（私は「地球外生命体の挑戦」と言いたい）について、次のような問いを發した。「我々の誰もが突然、自分たちが一つの人類であること、すなわち地球の市民であること、20世紀末に生きる我々が直面する地球的規模の大問題を共同で解決できる地球人であることを悟るのではないだろうか。」そのためにもUFO問題は我々が21世紀に入るための鍵なのである。それゆえ我々の政府が長いあいだ我々に隠してきた未確認飛行物体に関する真実を早く知ることが何よりも重要であろう。

以上が、UFO研究とそこに含まれている真理にとって重要な、読むに値する多くの本の一つに書かれているミヒャエル・ヘーゼマンの言葉である。彼の価値ある本の中でも『UFO—新たな証拠』と『UFOの秘密』（発行：ジルバーシュヌール出版 ISBN3-923781-83-0）は十分に調査した事実のみを扱っている。

ほとんど無限の宇宙にある何千兆という惑星の中で、地球は何よりも多様な生物が住み、人間という知的な生物を擁する星の一つである。人間は地球上で最も発達した知的生命体であり、意識的に進化する運命を負わされている。しかしこれは人間にとっ



デモンストレーション飛行するセムヤーセの最新型ビームシップ
ハーゼンペール・ランゲンベルク/フィッセンタールにて
写真No. 164 / 撮影ビリー 1976年3月29日 18時05分



セムヤーセの最新型ビームシップ
パハテルホルンリ/ウンターパハテル/ウンターパッハ/オルン・ヒンヴィルにて
写真No. 200 / 撮影ビリー 1976年3月8日 11時25分

て、苦労や苦悩や苦痛を引き受け、それに耐えなければならないということの意味する。なぜならこれらは物質的、物理的な生命体につきものだからである。それゆえそのことを嘆いたり悲しんだりすべきではない。と言うのも人間と呼ばれる理性を与えられたすべての生き物は、それらがどのような性質や種類のものであろうと、同じ困難な進化の道を歩まなければならないからである。苦悩や苦労や苦痛などは人間を強くし、人間が理性を与えられた生命体としてすべての苦労や苦悩や苦痛を乗り越えて、より高度な発達を追求することを保証する。このことはまた人間が前進し、絶えず新しい発達段階を生み出して、次第に技術的にも宇宙に飛び出せるまでに発達して、固有の太陽系や他の太陽系において自らの拡大を図るようになることを保証するものである。

私、「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤーは、この事実を誰にも吹き込もうとは思わないが、たとえ中途半端な理性しか持っていない人間でも、十分熟慮すれば誰でもこの真理を自分で認識できるものと確信している。しかしまだこの熟慮ができない者でも、自分自身で実効的な真理を、野外の自然においても探究すべきである。自然は、誰でも誠実に注意深く探す者には、創造の法則・自然と結びついた秘密を開示する。それにもかかわらずこの種の真理に関する事実を理解できないからと言って蔑むべきではない。なぜならどんな人間も人生を通して学び続けるからである。

(次号につづく)

(出典：Photobroschüre 1)

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

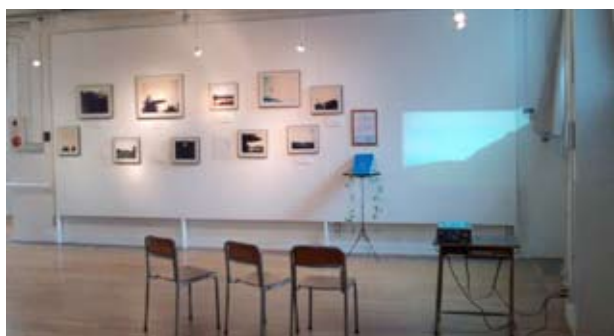
□ UFO写真展が開催されました □

読者の皆様はじめまして、東京スタディグループの申と言います。11月25日～12月2日東京四谷にて、UFO写真展が開催されましたので、簡単に終了報告をさせていただきます。

今回の会場は、新宿区の文化事業の一環で、市民NPOが運営するギャラリーでの開催となりました。写真展に来場された人数は200名ですが、地下1階エントランス入り口での展示でしたので、多くの方の眼に止まり、通り掛かりで数分立ち寄りの方も数多くいらっしゃいました。特にワークショップなどの用事で来る多くの子供達が、口々にUFO、ビリー・マイヤーと言って喜んでいました。その中でも印象的だったのが、親の手を引っ張りながら、切実にUFOが見たいと言っていた女の子でした。

今回は写真をメインに据えながらも、直前にスイスからDVDを送って頂き、会場の一面で上映しました。また、同じく送って頂いた『Kelch der Wahrheit (真理の杯)』の原本を、ランツェンドルファー氏の序文と一緒に展示しました。ちらしなどを作り、翻訳のための寄付を呼び掛けました。最後のコーナーで『わずかばかりの知識と知覚そして知恵』から、ビリーの散文詩を抜粋し、ドイツ語を並記しながら展示しました。

今回は少し趣向を凝らしまして、無料のコーヒースタンドコーナーを特設して、自由に飲んで頂けるようにしました。その成果か、2時間3時間とゆっくりくつろいで観て行かれた人や、モニターで熱心にギドーさんの講演を観た帰りに、沢山の本を買って行った方や、このために遠方から来て頂いた方も多くいらっしゃいました。帰り際に何人かの方に、また来ても良いですかと声を掛けて頂きました。



今回の会場のテーマですが、小さな「セムヤーセ・シルバー・スター・センター」の雰囲気再現したつもりです。実際来られた方に、どのように感じてもらったかは定かではありませんが。誰にもわかりやすいように、最小限でありながら、なおかつ多弁を要さぬよう工夫したつもりです。

反省点は多々ありますが、準備に十分な時間が取れずパネルを用意できなかつたり、写真に関しての質問には具体的な説明を用意できず、十分なナビゲートが出来なかつたりと、幾つかの課題は残りました。ボランティアとして参加して頂いた東京スタディグループの皆様、スイスから本やDVDを送って頂いた方など、この場をお借りして、感謝の意を表します。

□ ランチ・ミーティングが開催されました □

昨年12月12日に、八王子の京王プラザホテルにて、5名の読者にお集まりいただいて、ランチ・ミーティングが開催されました。当日はおいしいランチをいただきながら、これまでの読書で得た知識や日本におけるフィグのミッションについてなど、会話が弾みました。

ミーティングでは、自己紹介を兼ねて、フィグの書物との出会いについて、紹介されました。その中で、お気に入りの書籍やこれまでで特に心に残った箇所について、話し合いました。また、フィグ・ヤーパンのスタッフや各地の勉強会で、若い読者、特に女性の比率が少ないことが話題になりました。これに関して、身近に情報を得ることができる機会さえあれば、ビリーの書籍を求めている人の輪がもっと広がると考えられることから、写真展などを通じて、そうした機会を積極的に作っていくことの大切さが指摘されました。

ランチ・ミーティングは、読者の皆様からのご要望にも応じて、今後も不定期に開催していく予定です。フィグのこれからを作っていくため、老若男女幅広い読者の皆様の参加を求めています。今回ご参加いただけなかった方も、次回は是非ご参加ください。明日のフィグを創るあなたのご意見をお待ちしています！

出版物のご案内

- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)
価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)
価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)
価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(4)
価格 2,000 円 (税込 送料別 430 グラム)
- 宇宙の深遠よりープレアデス／プレヤール人とのコンタクト
価格 3,000 円 (税込 送料別 765 グラム)
- 心
価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)
- 瞑想入門
価格 3,200 円 (税込 送料別 815 グラム)
- 改訂新版! ■ わずかばかりの知識と知覚そして知恵(文芸社刊)
価格 2,400 円 (税込 送料別 845 グラム)
- 生命の哲学
価格 1,000 円 (税込 送料別 150 グラム)
- 日本語版 水瓶座時代の声
価格 各 1,000 円 (税込)
83/1 号(特集) (送料別 140 グラム)
83/2 号(特集) (送料別 105 グラム)
87/1 号(特集) (送料別 140 グラム)
91/1 号(特集) (送料別 135 グラム)
- 第 235 回会見
価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 霊と肉体における生
価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)
- ビリーの少年時代の著作
価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)
- 預言者エレミヤとエリヤの予告
価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)
- エノクの預言
価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)
- 『瞑想入門』の手引き
価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 仕事やその他の有意義な活動をしないと人間は墮落する
価格 200 円 (税込 送料別 30 グラム)
- 『連想／真理の杯』(DVD:FIGU-JAPAN講演会2009ビデオ)
価格 3,000 円 (税込 送料別 94 グラム)

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ホームページ等をご覧くださいか、フィグ・ヤープンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤープンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※4,000 円以上お買い上げの場合、郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤープン通信 第 41 号 (無料)

発行日 2010 年 1 月 1 日

発行 フィグ・ヤープン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 042(635)3741

FAX 042(637)1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail info@jp.figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤープンにご連絡ください。

Copyright (c) 2010 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.